

科 目 名	道徳教育指導論				
配 当 学 年	2 年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	講義	単 位 数	2 単 位	授業回数	15
授 業 担 当 者	原田 勇（非常勤講師）		単位認定責任者	原田 勇	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>道徳教育とは、「人格の完成及び国民の育成の基盤となる」道徳性を育てることである。そこで、中学校における道徳教育の現状と課題を検討し、生徒の人的発達・成長課題、「生き方」などを踏まえつつ、道徳教育の具体的指導の方法について、主に学習指導要領を読み解きながら基礎的知見を養う。また、道徳教育に関する教育学説、近代学校制度における歴史的特質なども検討する。それらを総合的に捉えたうえで具体的授業のプラン（指導案）を作成し、模擬授業を実践、状況によっては全員で指導案を検討する。そのためにも題材・資料・ねらいの深化が重要となり、その選択と授業参加者相互による批判・検討が特に重要となる。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における道徳教育の位置・役割を構造的に把握することができる。 2. 「道徳とは」「道徳性とは」「道徳教育とは」を、主に学習指導要領を読み解きながら具体的に語り、関連づけることができる。 3. 道徳教育の目標を学習指導要領の変遷から読み取り、説明することができる。 4. 学年・学級における生徒の実態を分析し、道徳の「授業」で生徒の何を伸ばすのか考察することができる。 5. 道徳の「授業」を自分でデザインし、展開することができる。 				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	25 %	レポート、グループワーク、学習姿勢・態度		
	論理性	35 %	レポート、発表		
	国際感覚	%			
	協調性	15 %	グループワーク		
	創造力	25 %	レポート、発表		
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス及び学校教育における道徳教育の位置と役割				
2.	「道徳とは」「道徳性とは」「道徳教育とは」を考える				
3.	学校教育における道徳教育の目標と教育目標の関係性				
4.	道徳教育の歴史の変遷と現在及び諸外国における道徳教育				
5.	道徳教育と道徳性の実践的検討（題材を実践的に検討し、道徳教育を考える）				
6.	道徳教育と道徳性の実践的検討（題材を実践的に検討し、道徳教育を考える）				
7.	生徒の実態と道徳教育（発達障害をもった生徒と生徒・教師の関係）				
8.	生徒の実態と道徳教育（児童・生徒虐待と生徒・教師の関係）				
9.	指導案の作成（構想、書き方、留意事項など）と資料探し				
10.	個人または数人のグループで指導案を作成する（授業形態を見て、どちらにするか判断する）				
11.	個人または数人のグループで指導案を作成する				
12.	個人または数人のグループで指導案を作成する				

13.	完成した指導案を基に模擬授業または全体会で発表・相互講評する				
14.	完成した指導案を基に模擬授業または全体会で発表・相互講評する				
15.	まとめ-今までの授業を振り返り、教師と生徒と道徳教育の関係を再確認する				
授業外学修について	次回の授業内容を学生に伝え、予習を促す。復習は、授業で使用した資料・プリント類はファイルにとじて見直す。疑問、深めてほしい点などは次回の授業に発表してもらう。				
教科書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説・総則編 東山書房				
参考文献	自作テキストやプリントはその都度配布する。参考書については、授業中に提示する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	○	○	○
成績評価の割合	0 %	0 %	60 %	25 %	15 %
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	授業を進める中で、一部補足修正事項が出てきたら対応する。 成績評価の割合の「プレゼンテーション」には、小課題、授業内発表を含む。 成績評価の割合の「取込状況」には、指導案作成を含む。				

（道徳教育指導論）